

令和2年度学校自己評価システムシート (県立川越南高等学校)

目指す学校像	文武両道を実現し、新しい時代に活躍する自立した社会人を育成する学校
--------	-----------------------------------

重点目標	1 質の高い授業実践と充実した進路指導で、確実な学力向上とワンランク上の進路希望の実現 2 知情意のバランスを保ち、困難な課題に果敢に挑戦する人間力の育成 3 開かれた学校づくりを推進し、学校内外からの高い支持と評価を獲得
------	---

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者 生徒 事務局(教職員)	名 名 名
-----	-------------------------	-------------

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価						
年 度 目 標				年 度 評 価 (月 日 現 在)		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度
1	■現状 ・教員相互の授業観察やICT機器を活用した授業実践等「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を推進している。 ・現役進学率90%(大学・短大78%)で、入学当初の国公立大学進学希望者割合は約25%である。 ■課題 ・「授業で勝負」を合言葉に、授業の工夫・改善を組織的な取組として展開する必要がある。 ・「学びに向かう力」を更に強化するための働きかけを早期段階から充実させる必要がある。	ワンランク上の進路実現に繋がる組織的・継続的な授業改善と進路指導の実現	①教員相互の授業観察期間を年間2回設定するとともに、隣接する中学校との相互授業参観を実施 ②観点別学習状況評価の各観点を踏まえ、生徒に考えさせる発問やアウトプット(書く・話す・話し合う・発表する)する場を授業内で積極的に創出 ③自学自習力を高めるために「何のために学ぶのか」という学習の意義を生徒間で共有させる指導を組織的・継続的に実施 ④ワンランク上へ引き上げる組織的な「進学補講」の計画・実施 ⑤保護者と連携した進路指導を推進するため、保護者参加型の進路行事や「高校生のための学びの基礎診断」及び模試結果データ等を活用した三者面談等の実施	①教員相互の授業観察の参観率100%を達成し、授業改善の機運が更に高まったか。 ①②③④「学校評価アンケート」の学習指導に関する調査項目の肯定回答割合が7割程度になったか。 ④平常時及び長期休業期間における「進学補講」が組織的に実施され、開設講座数及び参加者数が前年度を上回ったか。 ⑤「学校評価アンケート」の進路指導に関する調査項目の肯定回答割合が7割程度になったか。		
2	■現状 ・部活動や学校行事の取組が盛んで、「学校評価アンケート」の部活動や学校行事に関する調査項目の肯定回答割合が約9割にのぼる。 ・自立した生徒を育成するための生徒指導を計画的・継続的に実施するとともに、教育相談も充実させつつある。 ■課題 ・生徒が持っている潜在能力を最大限引き出し、充実した高校生活を送れるよう全教職員体制でサポートする必要がある。 ・「文武両道」を体現すべく部活動の合理的でかつ効率的・効果的な活動を推進する必要がある。	最後まで諦めない気力・体力・精神力の強化	①面談等でより高度な目標設定を促し、目標達成への努力を通じて探究心を涵養し、創造性を高め、自ら学び自ら考える力を育成 ②学校行事や生徒会活動、部活動等の自主的・自立的な活動を通じた自己肯定感や対人関係能力の育成と集中力や帰属意識、一体感等の涵養 ③規範意識を培い徳性を育てるため、交通ルールの遵守と自転車事故防止に向けた交通安全指導に加えて、登下校時のマナーやSNS利用上のモラルに関する指導を実施 ④健康の保持増進と体力向上を視野に、栄養・睡眠・運動と健康の関係について、各教科及び部活動・特別活動等で指導するとともに、健康診断や体力テストを活用した健康教育を実施	①生徒との面談が効果的に実施され、「学校評価アンケート」の生徒の目標設定に関する調査項目の肯定回答割合が9割程度になったか。 ②④「学校評価アンケート」の学校行事や部活動に関する調査項目の肯定回答割合が9割程度になったか。 ②部活動の大会・コンクール等の実績が前年度同程度又は前年度以上となったか。 ③「学校評価アンケート」の生徒指導に関する調査項目の肯定回答割合が9割程度になったか。 ④健康診断や体力テストの結果が全国平均値と比較して良好か。		
3	■現状 ・創立46年目を迎える中、志願倍率1.30倍の西部地区人気校として認知されている。 ・近隣の教育機関や保育施設をはじめ地域と連携した活動も増えつつある。 ■課題 ・県内中学校卒業生数が緩やかに減少する中、志願倍率を安定的に維持していく必要がある。 ・地域貢献活動や学校公開・学校開放事業等を展開し、地域に開かれた学校づくりを更に推進する必要がある。	学校広報・生徒募集活動の効率化と地域連携・協力活動の充実	①業務の効率化を視野に、生徒募集に係る各種データを収集・蓄積・分析し、学校広報・生徒募集活動全般の更なる工夫・改善と戦略的展開 ②学校Webサイトを有効活用し、様々なニーズに応えるタイムリーな情報を発信するとともに、新聞部発行「なんこう新聞」をはじめとする紙媒体の広報ツールによる学校広報を展開 ③ステークホルダーとの良好な協力関係の形成・維持に基づく学校公開・学校開放事業等の更なる工夫・改善 ④生徒会や部活動を中心とした地域貢献活動を計画・実施	①データ分析結果に基づき学校広報・生徒募集業務の効率化と戦略的展開が進んだか。 ①②学校Webサイトの閲覧数が前年度を上回るとともに、「学校評価アンケート」の学校広報に関する調査項目の肯定回答割合が7割程度になったか。 ③④授業公開や文化祭・体育祭等学校公開時の来校者数、学校説明会等の参加者数、体育施設開放事業の利用者数、地域貢献活動の実績数等が前年度同程度又は前年度以上となったか。		

学 校 関 係 者 評 価		
実施日	平成	年 月 日
学校関係者からの意見・要望・評価等		